

「火の用心だより」

第43号(平成30年9月号)

発行：札幌市消防局予防部予防課

停電時の火災に気をつけましょう

平成30年9月6日胆振地方中東部を震源とする大きな地震が発生しました。札幌市内も大きく揺れ、数分後には停電が発生しました。余震も続いていますので、今月号では、停電時の火災予防についてお知らせします。

●通電火災

通電火災は、阪神淡路大震災や東日本大震災でも多く発生しています。

停電になったとき、使用中であった電化製品は、スイッチがオンになったまま、電気が遮断されて止まります。スイッチがオンになったままなので、停電から復旧したときに、通電し再び動き出します。特にトースターや電気ストーブなどの電熱機器では、地震で倒れた状態のまま通電し周囲の可燃物に燃え移るおそれや、知らない間に可燃物と接触して火災が発生するおそれがあります。

また、地震の揺れで電化製品の配線被覆が傷つき、停電から復旧した際に配線がショートして火災が発生する例もあります。

通電火災で特に恐ろしいことは、地震発生とともに火災が発生するわけではないため、避難して無人になった室内で、停電から復旧したときに通電火災が発生、発見が遅れ大惨事になってしまう可能性があることです。

通電火災を防ぐには・・・

- ① 停電が発生したら、電化製品のスイッチを切り、ブレーカーを落とす
- ② 地震による配線の損傷がないか、確認する
- ③ 復旧後、ブレーカーを戻す際、電化製品のスイッチが切れているのを確認する

電熱機器には、電気ストーブやトースターの他、鑑賞魚用のヒーターがあります。

地震により水槽が破損して水が抜け、ヒーターが空焚き状態となれば、火災になる危険があります。



電気ストーブの例

●ロウソク火災

今回の停電時、あかり取りの目的で、ロウソクを使用した方も多いのではないのでしょうか。ロウソクは、余震によって倒れたり、周囲の可燃物に燃え移るなど、火災発生のおそれがあります。

停電時のロウソク火災を防ぐために・・・

- ① なるべくロウソクなどの裸火を使用しないようにする
- ② ロウソクを使わざるを得ない場合は、絶対にその場を離れない
- ③ 就寝時や外出時は必ず火を消す
- ④ ロウソクは大きな器に載せるなどして、十分に安定させる
- ⑤ できれば、LED 懐中電灯など熱の出ないあかりを備えておく

秋の火災予防運動

来月、10月15日（月曜日）から31日（水曜日）まで、秋の火災予防運動を実施します。秋から冬にかけて、暖房器具が原因の火災が多く発生する季節です。

ストーブを使い始める前の「火の用心」を心がけましょう。

●使い始める前の「点検ポイント」

- バーナーや空気取り入れ口にほこりが付着していませんか
- 長期間使用していない燃料の使用は避けましょう
- 電源コードは、被覆がはがれているなど、傷んでいませんか

●使用中の「当たり前の実践」

- ストーブの周りに燃えやすいものを置かない
- ストーブの上に洗濯物を干さない
- 燃料を入れるときは、必ず火を消す
- 絶対にガソリンを給油しない

使用していて何かおかしいと感じたら、すぐに使用を中止して、換気等を行ってください。

市民が主役の火災予防

- ① 火災予防行事・活動に参加しましょう
- ② 火災予防の知識・行動要領を身につけましょう
- ③ 消火器などの防災機器を備えましょう
- ④ 防災品を使用しましょう
- ⑤ 放火されない環境をつくりましょう
- ⑥ 火災から高齢の方などを守りましょう

発行：札幌市消防局予防部予防課

〒064-8586 札幌市中央区南4条西10丁目

☎011-215-2040

SAPPORO



さっぽろ市
02-N06-17-178
30-2-2019